

# 中国語の程度副詞“比较”について —弁別性の観点から—

謝 平

## 1. はじめに

程度副詞“比较”<sup>1</sup>については、《現代汉语词典》(第五版)では“表示具有一定程度”[一定の程度があることを表す](2005:70)と解釈している。また、《現代汉语八百詞》(1980:63)では次のように例を挙げながら、副詞としての“比较”を“表示具有一定的程度。不用于否定式。”<sup>2</sup>[一定の程度があることを表す。否定形には用いられない。]と説明している。

### a) 比较+形 [比较+形容詞]

从这里走～近 [ここから行けば比較的近い]

---

<sup>1</sup> “比较”には次の例のように動詞としての用法もある(例文は《現代汉语八百詞》から引用)。

(1) 请比较下边两组例句有什么不同。

[次の二組の例文の違いを比較してください。]

(2) 把这两篇文章一比较,就看出高低来了。

[この二つの文章を比較すると、レベルの高低がわかる。]

本稿では、程度状語としての程度副詞“比较”のみを考察対象とするため、動詞としての“比较”は除外する。また、“较”あるいは“较为”の意味は“比较”とほとんど同じであるため、一緒に扱っている先行研究もあるが、“较”は主に単音節の語と共起し、“较为”は主に二音節の語と共起するなど、統語的振舞いを異にすることから、本稿では“比较”のみを取り上げる。

<sup>2</sup> 《現代汉语八百詞》(1980:63)では「否定に用いられない」とされているが、実際はほかの程度副詞と同じように、否定に用いられる用例も多く見られる(例文はCCL語料庫から引用)。

(3) 除清河县这几年发展较快,发生的变化较大外,其他县仍处在贫困和比较不发达的状态。

[ここ数年、発展が比較的速く、起こった変化が比較的大きい清河县を除き、それ以外の県は相変わらず、まだ貧困と未発達な状況にある。]

(4) 还花了很大力气去勘探那些比较不著名的作家作品。

[また頑張ってあまり有名ではない作家の作品を探したりした。]

今天～冷 [今日は比較的寒い]

b) 比较+助动+动 [比较+助動詞+動詞]

他～能动脑筋 [彼は頭が比較的よく働く]

我～爱看电影 [私は映画を見るのが比較的好きだ]

しかし、このような解釈では、次の例のようなケースにおいて“比较”が用いられにくい理由を説明できない。

(1) A: 上个月我去北京玩了。

[先月、北京に遊びに行ったよ。]

B: 是吗?你觉得北京怎么样?

[そう?北京はどうだった?]

A: “我觉得北京比较好。”<sup>3</sup>

一方、《现代汉语虚词》(1982:79)の“比较”に対する定義は少し異なり、“表示相比而言具有一定的程度。一般着重表示程度不是很高。”[比較して一定の程度があることを表す。一般的に程度があまり高くないことを表す]と定義している。<sup>4</sup>また、《现代汉语副词分类实用词典》(1989:35)でも、“相当(表示在对比中程度高于一般情况，具有一定的程度)”[相当(对比して程度が一般的な状況より高いこと、一定の程度を具えることを表す)]と解釈している。この二つの定義はいずれも何かと比較するということが明記されているが、次の例のように“比较”は必ずしも対比や比較の意味を持たない場合にも用いることができる。

(2) 明远这个人比较谨慎。

<CCL 语料库>

[明遠は比較的慎重である。]

“比较”はどのような条件下で用いることができるのであろうか。本稿では“比较”の弁別性に着目し、意味論的観点から“比较”の意味機能を明らかにする。また、統語論の観点から程度副詞“比较”の文法的制約を分析するとともに、“比较”の表す程度についても考察

<sup>3</sup> 本稿では出典が示されていない例文はすべて作例である。

<sup>4</sup> 引用部分の下線は引用者による。

する。

## 2. “比较”の意味的特徴

### 2.1 相対性

程度副詞“比较”は“比”構文<sup>5</sup>には用いられないものの、相対程度副詞<sup>6</sup>に分類されることが多い(马真 1988、周小兵 1995、大島 1997、张谊生 2000 など)が、その理由として“比较”は「“比”構文以外の、比較を表す構文とは共起する」ためであると指摘されている(大島 1997:73)。

- (3) a. 和他们原先的马匹比起来，它比较壮、比较胖，年纪也大多了。

<CCL 语料库>

[彼らのもともとの馬に比べると、その馬のほうが比較的たくましく、比較的肥えている。年もずっと上だ。]

- b. \*它比他们原先的马匹比较壮、比较胖，年纪也大多了。

- (4) 和10天前相比，现在的尼特彗星比较清晰，能很快搜索到。 <CCL 语料库>

[十日前に比べ、今のベネット彗星は比較的是っきりしており、すぐに探知することができる。]

例(3b)で示すように、“比较”は“比”構文に用いることができないが、例(3a)、(4)のように特定の比較対象が示されている比較構文には用いられる。また、“比较”は特定の比較対象は提示されていないが、比較対象が推測できるような場合にも用いられる。

- (5) 在鸟类中，乌鸦比较聪明。

<CCL 语料库>

[鳥類の中で、カラスは比較的賢いほうだ。]

<sup>5</sup> “比”構文とは“A 比 B～”という構文を指し、比較構文の中で最も典型的な構文である。

<sup>6</sup> 王力(1943)では“凡无所比较，但泛言程度者，叫做绝对的程度副词”[凡そ比較がなく、程度を表すものは絶対程度副詞という。](上巻 268 頁)；“凡有所比较者，叫做相对的程度副词。”[凡そ比較するものがあるのは相対程度副詞という。](上巻 270 頁)と指摘し、比較対象の有無によって、程度副詞を「相対程度副詞」と「絶対程度副詞」に下位分類している。

例(5)には“在鸟类中”という範囲が提示されており、カラスをほかの鳥類と比較していることが推測できる。このように、“比较”は比較対象が存在する場合に用いられるケースが多いことから、“比较”の特徴としてまず何かと比較するという「相対性」が挙げられる。冒頭に挙げた例(1)において“比较”が用いられにくいことについても、“比较”の「相対性」と合致しないことがその理由の一つとして考えられる。

(1) A: 上个月我去北京玩了。

[先月、北京に遊びに行ったよ。]

B: 是吗?你觉得北京怎么样?

[そう?北京はどうだった?]

A: “我觉得北京比较好。”

<再掲>

したがって、次の例(1a’)、(1b’)のように“比较”の「相対性」と合致する文脈に変更すれば、“比较”を用いることが可能となる。

(1’) a. A: 你觉得北京好还是上海好?

[北京と上海ではどちらがいいと思う?]

B: 我觉得北京比较好。

[北京のほうがいいと思う。]

(1’) b. A: 你觉得北京怎么样?

[北京はどう思う?]

B: 在我玩过的地方里面，我觉得北京比较好。

[私が遊んだことのある場所の中で、北京はいいほうだと思う。]

例(1a’)は、北京と上海のどちらがよいかという質問に対して、両者を比較した結果、北京を選んだという文脈であるため、“比较”を用いることが可能となる。また、例(1b’)には特定の比較対象は示されていないが、“在我玩过的地方里面”という比較の範囲が示されており、比較対象は話し手が遊んだことのある複数の場所であることが推測できる。つまり、例(1a’)、例(1b’)の文脈はいずれも“比较”の「相対性」に合致することから、成立が可能となるのである。

## 2.2 弁別性

前述のように比較対象が存在する場合には“比较”の「相対性」が顕著となる。しかし、“比较”は次の例のように比較対象が読み取れない場合に用いられるケースもある(例(6)の日本語訳は引用者による)。

- (6) 这样无论对你还是对别人都比较公平。 <时卫国 2006:75>  
 [このようにすれば、あなたに対しても他の人に対しても比較的公平である。]

时卫国(2006:75)は例(6)のような“比较”について、“缺乏相对的意义”[相対の意味が欠けている]と述べている。<sup>7</sup>したがって、例(6)のような場合に“比较”が用いられる理由については、「相対性」だけでは説明できない。

“比较”の表す意味について、大島(1997:79)は“比较”の用法を五つの状況<sup>8</sup>に分けた上で、「何かの標準値<sup>9</sup>との比較から物事を分類することを基本的な意味として、標準値と実際の程度差を言い表す」と指摘している。本稿では大島(1997)のこの指摘に基づいて分析を進め、「相対性」以外のほかの程度副詞にはない“比较”の特徴を探ってみる。まずは、比較対象が読み取れる場合の例から見てみよう。

- (7) 《西游记》出现后，神魔小说曾风靡一时，其中比较成功的是《封神演义》。  
 <郑恩波・郑秋蕾《中国文学》>  
 『西遊記』が出てきてから、神魔小説はかつて一時的なブームになった。その中でも比較的成功しているのは『封神演義』である。]

<sup>7</sup> 以下に时卫国(2006:75)の原文を示す。

所谓“比较公平”只是话者的一种主观评价，由于缺乏相对的意义，这种评价给人一种强加于人的感觉。

[“比较公平”というのは話者の一種の主観的な評価に過ぎない。相対の意味が欠けているため、この種の評価は人に押し付けがましい印象を与える。]

<sup>8</sup> 大島(1997:75)では“比较”を比較の基準が文脈から読み取れるか否かに基づいて大別し、さらに、前者を「分類を言い表す場合」、「より程度が高いことを示す場合」、「状態変化の幅を言い表す場合」に、後者を「標準値」との比較を表す場合、「評価を言い表す場合」に下位分類している。

<sup>9</sup> 「標準値」について、大島(1997:77)は“比较”は必ずしも社会的な標準だけでなく、個人的な標準も含めた広い意味での「標準値」との比較を言い表す」と述べている。

例(7)では小説《封神演義》が属する部類「神魔小説」が示されている。このような場合における“比较”を同じく「相对性」を持つ相对程度副詞の“更”、“最”に置き換えると次のようになる。

- (7') a. \* 《西游记》出现后，神魔小说曾风靡一时，其中更成功的是《封神演義》。  
b. 《西游记》出现后，神魔小说曾风靡一时，其中最成功的是《封神演義》。  
[『西遊記』が出てきてから、神魔小説は嘗て一時的なブームになった。その中で最も成功しているのは『封神演義』である。]

“比较”、“更”、“最”はいずれも「相对性」を持っているが、“更”は特定の比较対象との比较が前提となるため、例(7a')のように比较対象が特定されない場合には用いられにくい。一方、“最”は一定の集団から対象を選び、その対象が最も高い程度を持っていると判断することを表す。例(7)は「神魔小説」というジャンルから“《封神演義》”という小説が選ばれており、例(7b')のように“最”に置き換えた場合、文として成立する。もちろん、“比较”は“最”と同じようにある集団から対象を選ぶということも表すが、“最”とは異なり、その対象がすべてのほかのものより程度が高いという意味は表さない。“比较”はその対象を「成功している」部類か「成功していない」部類かに振り分けるとき、はっきりとした判断はできないが、「どちらかといえば成功した部類に属する」というような分類をしている。

この場合の“比较”はある類からある対象を選び、その対象を大まかに述詞の表す性質を持つほうに分類するという意味を表す。本稿では、“比较”のこのような分類機能を「弁別性」と呼ぶ。また、この「弁別性」は「どちらかといえば」というようなニュアンスを表し、曖昧さを帯びるのが特徴である。

“比较”のこの「弁別性」は、特に比较対象が提示されない場合、つまり“比较”から「相对性」が読み取れない場合において活性化していると考えられる。

- (8) 但由于健康状况欠佳，一直比较消沉。 <CCL 语料库>  
[健康状態があまりよくないから、ずっと落ち込んでいた。]  
(9) 温室中植物生长需要比较高的湿度。 <Google>  
[温室の中の植物が成長するには比較的高い湿度が必要である。]

例(8)は比較対象が提示されていないため、「相対性」は読み取れない。この場合の“比较消沉”は「どちらかといえば、落ち込んでいるほうである」という意味を表し、“比较”の弁別機能が働いている。また、例(9)では比較対象ははっきりとは提示されていないが、「温室の植物」は「植物」に属しており、ほかの植物と比較している可能性もあり、「相対性」がまったくないとはいえない。しかし、この場合の“比较”もやはり「どちらかといえば、温室の植物は高い湿度を必要とするほうに属している」という判断を表しており、「弁別性」が働いていることは明らかである。

上述のケースだけでなく、“比较”の持つ「弁別性」は「相対性」が顕著な場合にも機能している。

- (10) a. 和澳大利亚比起来, 中国的环境污染比较厉害, …… <CCL 语料库>  
 [オーストラリアに比べると、中国は環境汚染が比較的ひどい。]  
 b. 和澳大利亚比起来, 中国的环境污染更厉害, ……  
 [オーストラリアに比べると、中国は環境汚染がもっとひどい。]  
 c. \*和澳大利亚比起来, 中国的环境污染最厉害, ……

例(10)は先の例(7)の場合と逆で、“更”は用いられるが、“最”は用いられない。例(10)には「オーストラリア」という特定の比較対象が示されているが、比較対象が二つ以上ではないことから、“最”は用いられない。一方、例(10b)のように、“更”を用いることは可能であるが、“比较”を用いた例(10a)とはニュアンスが異なる。“更”は比較対象との間に大差があることを表すが、“比较”は比較対象との具体的な程度差についてははっきりと表さない。この場合の“比较”も例(7)～(9)と同様に「どちらかという、ある性質を持つ(ここでは「環境汚染がひどい」)ほうに属している」という意味を表している。

また、“比较”は曖昧な判断を表すことから、次の例のようなアンケート調査などにしばしば用いられる。

- (11) 总的来说, 您对《法制晚报》的总体满意度是怎样的呢?  
 非常满意 比较满意 一般 比较不满意 非常不满意 <北青网>  
 [総じていえば、貴方の『法制夕刊』に対する満足度はどうですか。  
 非常に満足 どちらかといえば満足 普通 どちらかといえば不満 非常に不満]

例(11)はアンケート調査の回答項目を引用したものであるが、五段階の回答の中の二つに“比较”が用いられている。“比较满意”は満足度の中で、「どちらかといえば満足である」という意味を表し、“比较不满意”は「どちらかといえば不満足である」との判断を示す。つまり、“比较满意/比较不满意”における“比较”は、どちらかをあえて選ぶならば「満足」、「不満足」のほうに振り分けるというような役割を果たしている。

以上のようなことから、“比较”はその「相対性」に合致する文脈だけでなく、「弁別性」に合致する文脈でも用いられる。したがって、“比较”が用いられにくい例(1)は、先の例(1a')、(1b')のように“比较”の「相対性」に合致する場合だけでなく、次の例(1c')のように“比较”の「弁別性」に合致する文脈でも用いられる。

(1') c. A: 你觉得北京好不好?

[北京はよいと思いますか?]

B: 怎么说呢? 我觉得北京还比较(\*更)好吧。

[そうだね。まあまあいいと思います。]

例(1c')の文脈では比較対象が示されておらず、「相対性」が顕著な“更”は用いられないが、“比较”は用いることができる。例(1c')には“怎么说呢?”という返答を躊躇する気持ちを表す文と推量の語気助詞“吧”があり、A さんが出した「良い」、「良くない」という二つの選択肢に対して、どちらに振り分けるべきかはっきりと決めかねるという B さんの迷う気持ちを表している。つまり、例(1c')では“比较”を用いることによって「どちらかといえば、よいほうである」という曖昧さを帯びた判断が表されている。

このように、「相対性」はすべての相対程度副詞が持つ共通性であり、“比较”のみにみられる特徴ではないが、この曖昧さを帯びた「弁別性」は“比较”の特徴的な性質であると考えられる。また、この「弁別性」は“比较”の文法的制約にも大きな影響を及ぼす。以下では“比较”の文法的制約について考察する。

### 3. “比较”の文法的制約

既述のように“比较”はほかの相対程度副詞とは異なり、比較対象が存在するという「相対



性」だけでなく、「どちらかといえばその性質を持っている」という曖昧さを帯びた「弁別性」という性質も持っている。この弁別性は文法的振る舞いにも反映されている。

まず、“比较”はほかの程度副詞と同じように形容詞や心理動詞などと共起して平叙文の述語成分になることができる。

(12) 在那种情况下，所有的队员都看着我，作为我来说，精神压力就比较大。

<中广网>

[その状況では、すべてのメンバーが私を見ていた。私にとって、ストレスはかなり大きかった。]

(13) 而且老年人比较担忧，比较恐惧孤独。

<CCL 语料库>

[しかもお年寄りは孤独になることをかなり心配し恐れている。]

例(12)、(13)のように“比较”は形容詞、心理動詞などと共起して平叙文の述語成分になることができる。しかし、次の例(14)、(15)のような場合には“比较”は用いられない。

(14) 看在上帝面上，你能不能更快一点(\*比较快一点)? <《飘》(傅雷译)>

[お願いだから、もうちょっと速くしてくれない。]

(15) 漓江的水真清(\*比较清)啊，清得可以看见江底的沙石。

<陈淼《桂林山水》>

[漓江の水は本当に透き通っているね。透き通っていて、川底の砂や石が見える。]

例(14)は相手に「もっと速くする」ように変化を求めることを表す命令文であり、ここでは相対程度副詞の“更”が用いられているが、“比较”を用いることはできない。“比较”は“更”のように相対性を持つだけではなく、弁別機能が働く「弁別性」も持っており、已然の状況に対して判断する傾向があり、例(14)のような未然を表す命令文には用いられない。一方、例(15)では感嘆を表す絶対程度副詞の“真”が用いられている。例(15)は已然の状態を表すものの、“比较”は「どちらかといえば～である」という曖昧な判断を表すことから、高い程度を持つことに対する感嘆などの意味とは相容れない。したがって、例(15)のような感嘆文にも用いられないのである。

また、次の例のように[比較+形容詞/動詞]は連体修飾語成分(例(16))や補語成分(例(17))になることもできる。

(16) 当然，如果有比较好的领导才能，有影响他人的天赋，就更容易成为一个优秀的管理者。 <CCL 语料库>

[勿論、もしリーダーとして比較的良い才能があり、他人に影響を与える天赋の才があれば、優秀な管理者になるのはさらにたやすい。]

(17) 母鸡活得比较长一点，但难说这是不是福气。

<《动物解放》(孟祥森·钱永祥译)>

[雌鶏は少し長く生きるが、しかしそれが幸せかどうかは何とも言えない。]

しかし、次の例が示すように連用修飾語成分になることはできない。

(18) 他很紧张(\*比较紧张)地注视着冯永祥。 <周而复《上海的早晨》>

[彼はとても緊張した表情で馮永祥を見つめていた。]

(19) 这句话惹得她更伤心(\*比较伤心)地哭了起来。 <余华《世事如烟》>

[このことばで彼女はもっと悲しくなって泣き出してしまった。]

例(18)、(19)はいずれも“比较”を用いることができない。“比较”は形容詞などと共起して、性質あるいは状態に対する判断を表す述語や例(16)、(17)のような連体修飾語、補語になることは可能である。しかし、“比较”はある性質を持つほうに属しているという判断に重点が置かれるため、例(18)、(19)が示すように動作を形容する連用修飾語にはなりにくい。このような現象からも“比较”の「弁別性」がうかがえるといえよう。

## 4. “比较”の表す程度

### 4.1 程度の高低について

大島(1997:78)では、“比较”は、「程度の大小は標準値のおき方によって決まるので、“比较”は高い程度も低い程度も表しうる」と指摘している。確かに、“比较”は高い程度を表す場合もあれば、低い程度を表す場合もある。本節では、“比较”の「弁別性」と表す程度の

関連性について考察する。次の例を見てみよう。

(20) 跟我的前男友相比，他个子比较高。 <Google>

[私の前の彼氏に比べ、彼は背が比較的高い。]

例(20)の“比较高”は具体的にどれぐらい高いのかについてははっきりと言い表されておらず、場面や聞き手によっては「かなり高い」という意味として解釈することもあれば、「まあまあ高い」という意味として解釈することもある。つまり、“比较”によって表される程度の幅は広く、曖昧な表現であるといえる。

例(20)は「前の彼氏」という特定の比較対象があり、この場合の“比较”は「相対性」を持っているが、この場合でも「弁別性」が機能していると考えられる。もし例(20)の“比较”に「相対性」しかないとすれば、次の例(20')と同じニュアンスを表すと考えられるが、実際には両者のニュアンスは異なる。

(20') 他个子比我的前男友高。 <Google>

[彼は私の前の彼氏より背が高い。]

例(20')は「彼は前の彼氏より背が高い」という意味を表すため、「彼」と「前の彼氏」は二人とも背が低い可能性もあれば、二人とも背が高い可能性もある。一方、例(20)の“比较高”の場合は、「彼」の背が低いという可能性はなく、「どちらかといえば高いほうに属している」という意味を表している。したがって、“比较”の表す程度の幅が広い理由は“比较”の持つ曖昧さを帯びた「弁別性」に因るものと考えられる。

次の例は例(20)と異なり、比較対象は明示されていないが、文脈から推測することができる。

(21) 道光这几个儿子，对近代历史影响比较(\*更/最)大的就是三个，第一个是老四奕訢，就是咸丰，第二个是老六奕訢恭亲王，第三个是老七醇亲王奕环，就是溥仪的爷爷。 <CCL 语料库>

[道光の数人の息子たちの中で、近代の歴史に対する影響が比較的大きいのは三人である。一人目は四番目の奕訢、即ち咸豊であり、二人目は六番目の奕訢

恭親王、そして三人目は七番目の醇親王奕環、即ち溥儀の祖父である。]

例(21)の“比较”は道光の息子たちという集団から三人の息子を選び、この三人の息子の近代史に対する影響の程度を表している。ここの“比较大”ははっきりした程度を表さず、人によって「かなり大きい」と捉えることもあれば、「まあまあ大きい」、「そんなに大きくない」と捉えられることもある。例(21)はこの三人以外の息子も近代史に大きな影響を与えたという意味を表さないことから、相対程度副詞の“更”に置き換えることはできないが、“最”に置き換えることは可能である。しかし“最”はある集団においてほかのすべてのメンバーより程度が高いことを表す。それに対して、“比较”の場合、選ばれた対象以外のすべてのメンバーとの程度差ではなく、ある性質の有無について弁別することに焦点が置かれる。その上、この弁別は「どちらかといえばある性質を持っているほうに属している」という曖昧な判断を表すため、例(21)の“比较大”は「かなり大きい」、「まあまあ大きい」、「そんなに大きくない」のように捉え方が人によって違ってくるのである。

また、比較対象が提示されていない場合でも“比较”の表す程度は場面や捉え方によって異なる。

(22) A: 小王很固执!

[王さんはとても頑固だ。]

B: 小王是比较(更)固执, 不过人挺好的。

[王さんは確かにちょっと頑固だけど、人柄がいい。]

例(22)の“比较”は“更”に置き換えた場合も文として成立するが、表される意味には大きなずれが生じる。“更”は「相対性」の著しい語であり、文中に提示されていなくても常に比較対象が存在し、その対象よりさらに程度が高いことを表す。一方、例(22)のように比較対象が示されていない場合、“比较”から「相対性」は読み取れない。この場合の“比较”の表す程度も捉え方によっては、「かなり」のような高い程度として理解される可能性もあれば、「ちょっと」のような低い程度として理解される可能性もある。その理由もやはり“比较”の曖昧さを帯びた「弁別性」にあるといえる。

## 4.2 コミュニケーションへの応用

第3.1節で分析したように、“比较”は具体的な程度を表さず、「どちらかといえば、ある性質を持っているほうに属している」という意味を表し、その表す程度の幅が広いことから、曖昧な表現となる。そのため、しばしば婉曲的で、控えめな表現として用いられる。

(23) 如果非要让我说说我有什么特点的话，只能说我是一个比较能吃苦的人。

<CCL 语料库>

[もし私にどんな特徴があるかを言わせるのなら、比較的勤勉であるというしかない。]

(24) 他比较小气。

<Google>

[彼はちょっとケチだ。]

例(23)は自分で自分を評価しているため、実際は「とても勤勉である」ことも考えられるが、“比较”を用いることにより、表される程度が曖昧になり、「どちらかといえば、勤勉なほうである」という謙遜した表現になる。また、例(24)は他者に対し「けち」であるとマイナス評価を下しているが、“比较”を用いることによって、その程度は曖昧となり、語気がやわらかくなる。

このように、“比较”自体の表す程度ははっきりせず曖昧であり、文脈や場面によって、表す程度が変わってくる。そのため、特に例(23)、(24)のような謙遜を表す場合や婉曲的に他人を評価する場合などに用いられることが多い。また、次の例のように、“比较”は依頼の場面にも用いられる。

(25) 我希望大家能够创造一个比较(很)好的环境，让我放开手去做，在整个训练过程中，不断总结和改进。

<CCL 语料库>

[私は皆さんによい環境を作ってください、私に思い切ってやらせていただき、訓練の過程で絶えず経験を積み重ね、改善させていただきたいと思います。]

(26) 你能不能比较(很)简短地稍微给大家介绍一下这个组织? <中国日报网>

[この組織についてちょっと皆さんに簡潔に紹介していただけませんか。]

例(25)、(26)ではいずれも相手に対する願望が述べられており、両例文とも原文には“比较”が用いられているが、“比较”を“很”に置き換えても文として成立する。しかし、“很”を用いると、明確に高い程度が表され、相手に対してストレートに高い程度を要求することにな

るため、直接的なきつい表現になってしまう。これを避けるため、中国語では相手に要望を述べるとき、例(25)、(26)のように“比较”を用いることにより、語気をやわらげ、相手の心理的負担を軽減し、自分の要求を受け入れてもらいやすい表現とするのである。

#### 4.3 不定数量を加える場合について

“比较”はほかの相対程度副詞と同じように、不定数量詞“一些”、“一点”と共起することができるが、具体的な数量詞と共起することはできない。

(27) 要是到了晚上，休息的时候当然比较长一些(\*一个小时)。

＜张贤亮《邢老汉和狗的故事》＞

[夜になれば、休憩の時間は当然少し長い。]

(28) 帅标营和中军营分的老兵比较多一点(\*十个人)…… ＜姚雪垠《李自成》＞

[帥標營と中軍營に配備された老兵は少し多めである。]

この現象については、时卫国(2006)でも指摘されているが、“比较”が“一些”、“一点”以外の具体的な数量詞とは共起しない理由については述べられていない。本稿では、“比较”が“一些”、“一点”としか共起しない理由について、“比较”が曖昧さを帯びた「弁別性」を持ち、その表す程度が曖昧であることに起因すると考える。言い換えれば、“比较”は具体的な程度や程度差を表さず、「どちらかといえば、ある性質を持つほうに属している」という曖昧な判断を下すことを表現意図とすることから、“一些”、“一点”以外の具体的な数字を用いた数量詞とは相容れず、共起することができないのである。

程度の差を表す“一些”、“一点”の働きについては、时卫国(2006:74)が指摘する通り、“比较”と共起して、何かと比較することを明確に示す役割を果たしていると考えられる。<sup>10</sup>しかしそれ以外にも、具体的な程度あるいは程度差を表さない“比较”に“一些、一点”を付加して、程度差がわずかであることを表すことによって、より円滑なコミュニケーションを促す働きをする場合がある。

---

<sup>10</sup> 以下に原文を示す。

“比较”是个不用于“比”字句的表示比较的程度副词。在修饰量性时，表示话者依据一定的社会标准，对事物进行比较，表示比较的相对性。(时卫国 2006:74)

[“比较”は“比”構文に用いられず比較を表す程度副詞である。量的語句を修飾する場合、話し手が一定の社会基準に基づいて物事を比較することを表し、比較の相対性を表す。]

(29) 比如像你们这些媒体人士，可能你的岁数比较大一点，但你的心态是非常年轻的。有些人可能本来快 50 岁了，但他还是有 20、30 多岁的心态面对每天的生  
活。

<Google>

[あなた方のようなマスコミ界の方は、年齢は少し高いかもしれませんが、心はとても若いです。もうすぐ五十歳になるような方でも、二十代、三十代の心持ちで毎日生活していらっしゃいます。]

例(29)の“岁数比较大一点”というのはマスコミ界の人間のことを指している。また、例(29)の後半からわかるように、マスコミ界の人間には五十代以上の年配の人も含まれる。もちろん、例(29)を次の例(30)のようにしても表される意味に大差はない。

(30) 比如像你们这些媒体人士，可能你的岁数比较大，……

[あなた方のようなマスコミ界の方は、年齢はわりと高いかもしれませんが…]

例(30)では不定数量詞“一点”が用いられていない。この場合の“比较”が表す程度は曖昧であり、少し控えめな表現となるが、表される程度の幅は広く、実際には「かなり年上」と理解される可能性もある。それに対し、例(29)は“一点”が付加されることにより、年齢差がわずかであると強調され、相手の気持ちを忖度しているというニュアンスが伝えられ、婉曲的な表現になる。

つまり、程度副詞“比较”には「弁別性」が機能していることから、“比较”自体には高い程度であるか、あるいは低い程度であるかは具体的に表されていない。そのため、控えめな表現あるいは婉曲な表現にする働きがある。特にコミュニケーションにおいて、不定数量詞“一些、一点”と共起する場合、例(29)のようにいっそう相手の気持ちを考慮した控えめな言い方になり、より丁寧で、やわらかい表現となる場合がある。

## 5. まとめ

以上の分析から、“比较”には「相対性」以外にも、対象をある性質を持っている領域に振り分けるといふ弁別機能があること、そして、この弁別機能が働く際、「どちらかという」という

曖昧さを帯びることがわかった。特に比較対象が提示されない場合、つまり「相対性」が薄れる場合において、“比较”のこの曖昧さを帯びた「弁別性」はさらに顕著になる。

また、統語的特徴においては、“比较”は形容詞や心理動詞などと共起して、平叙文の述語成分、連体修飾語成分、補語成分として用いられるが、已然の状況に対して曖昧な判断を下すことから、未然を表す命令文や高い程度に対する驚嘆などを表す感嘆文に用いることができない。さらに、動きなどをはっきりと描写する機能を持つ連用修飾語にもなりにくいことについて言及した。

“比较”は具体的な程度を表さないため、文脈や場面によってかなり高い程度を表す場合もあれば、低い程度を表す場合もある。特に評価や依頼などの場面では、円滑にコミュニケーションを遂行するために“很”などの絶対程度副詞より、“比较”が用いられることが多い。また、“比较”は不定数量詞“一些、一点”とは共起することができるが、具体的な数字を用いる数量詞は“比较”の表す程度の曖昧さとは相容れないため、“比较”とは共起できないことを明らかにした。さらに、“比较”は不定数量詞“一些、一点”と共起する場合、コミュニケーションにおいては、程度を控えめに示すことから、いっそう婉曲的な表現になる働きがあることを指摘した。

#### [参考文献]

- 大島潤子 1997. 「程度副詞“比较”の意味分析」, 『中国語学』 244 号
- 時衛国 1999. 「中国語と日本語における程度副詞の対照研究—「比较」と「比較的」—」, 『富山大学人文学部紀要』 第 31 号
- 北京大学中文系 1955・1957 级语言班 1982. 《现代汉语虚词例释》, 商务印书馆
- 吕叔湘主编 1980. 《现代汉语八百词》, 商务印书馆
- 马真 1988. 〈程度副词在表示程度比较的句式中的分布情况考察〉, 《世界汉语教学》第 2 期
- 时卫国 2006. 〈比较+被修饰语+量性成分〉, 『愛知教育大学研究報告』(人文・社会科学編) 55 号
- 王力 1943. 《中国现代语法》(上卷), 商务印书馆
- 张谊生 2000. 《现代汉语副词研究》, 学林出版社
- 周小兵 1995. 〈论现代汉语的程度副词〉, 《中国语文》第 2 期